詩篇148篇

Ⅰ．天の存在への賛美の呼びかけ

1 ハレルヤ。天において主をほめたたえよ。いと高き所で主をほめたたえよ。
2 主をほめたたえよ。すべての御使いよ。主をほめたたえよ。主の万軍よ。
3 主をほめたたえよ。日よ。月よ。主をほめたたえよ。すべての輝く星よ。
4 主をほめたたえよ。天の天よ。天の上にある水よ。
5 彼らに主の名をほめたたえさせよ。主が命じて、彼らが造られた。
6 主は彼らを、世々限りなく立てられた。主は過ぎ去ることのない定めを置かれた。

Ⅱ．地の存在への賛美の呼びかけ

7 地において主をほめたたえよ。海の巨獣よ。すべての淵よ。
8 火よ。雹よ。雪よ。煙よ。みことばを行うあらしよ。
9 山々よ。すべての丘よ。実のなる木よ。すべての杉よ。
10 獣よ。すべての家畜よ。はうものよ。翼のある鳥よ。
11 地の王たちよ。すべての国民よ。君主たちよ。地のすべてのさばきづかさよ。
12 若い男よ。若い女よ。年老いた者と幼い者よ。
13 彼らに主の名をほめたたえさせよ。主の御名だけがあがめられ、その威光は地と天の上にあるからだ。

Ⅲ．イスラエルの民への賛美の呼びかけ

14 主は、その民の角を上げられた。主のすべての聖徒たち、主の近くにいる民、イスラエルの子らの賛美を。ハレルヤ。

「ハレル詩篇」の第三。本篇は、宇宙をあげての壮大な賛美の詩です。146 篇、147 篇では主に「人間」が中心でしたが、ここでは天地万物――天にあるものも地にあるものも――すべてが主を賛美するように促されています。

本篇は大きく三つの存在への賛美の呼びかけとして整理することができます。

Ⅰ．天の存在への賛美の呼びかけ（１～６節）
Ⅱ．地の存在への賛美の呼びかけ（７～13 節）
Ⅲ．イスラエルの民への賛美の呼びかけ（14 節）

そして、目立った特徴は、そのあらゆる存在に向かって「**ほめたたえよ**」「**ほめたたえさせよ**」とひたすら呼びかけていることです。小畑師などは「無技巧・無造作」「詩でない詩」「歌でない歌」としつつ、そこに「賛美の結晶」があると絶賛します（『詩篇講録 下』 p. 1344）。

Ⅰ．天の存在への賛美の呼びかけ

最初の部分（１～６節）では、「天の存在」に向けた賛美の呼びかけがなされます。「**すべての御使い**」「**主の軍勢**」「**日**」「**月**」「**星**」、そして「**天の上にある水**」。目に見えるものも、見えないものも、すべてが「主を賛美せよ」と招かれているのです。この世界は偶然にできたのではなく、「**主が命じて、彼らが造られた**」（５節）とあるように、神のことばによって存在を与えられました。天地創造の力強さ、確かさを、詩人は賛美をもって描き出しています。

Ⅱ．地の存在への賛美の呼びかけ

次に（７～13 節）、「地の存在」への呼びかけが続きます。「**海の巨獣**」「**淵**」「**火**」「**雹**」「**雪**」「**煙**」「**あらし**」「**山々**」「**丘**」「**木**」「**獣**」「**家畜**」「**はうもの**（爬虫類）」「**鳥**」。さらには人間――「**王**」「**国民**」「**若い男**」「**若い女**」「**年老いた者**」「**幼い者**」に至るまで、すべてのものが賛美の対象者です。自然界の厳しさも、命の営みも、一切が神の支配のもとにあることを詩人は思い描いているのでしょう。私たちは、日々起こる一つひとつの自然現象の中に、神の御手を見出すことができるのです。

Ⅲ．イスラエルの民への賛美の呼びかけ

そして最後（14 節）、詩人は特に「イスラエルの民」に与えられた特別な祝福にふれます。「**角を上げられた**」とは、力と栄誉を与えられること。神に近い民として選ばれたイスラエルは、その特権を誇るのではなく、より深い賛美へと招かれています。

私たちもまた、天地を超えて響くこの賛美に加わる者です。今、世界は混乱と不安に包まれていますが、それでもなお、変わることのない主の御名を賛美する者たちがいる。それが、主に属する者たちの姿です。「**主のすべての聖徒たち、主の近くにいる民、イスラエルの子らの賛美を**」（14 節）。この声に、私たちの声も、今日加えられたいと願います。ハレルヤ！